

7

オプションの増設

ストリーミングサーバに取り付けられるオプションの取り付け方法および注意事項について記載していません。

注意事項(→250ページ) ストリーミングサーバにオプションを増設する際の注意事項について記載しています。作業を始める前に必ずお読みください。

取り付け/取り外しの準備(→254ページ) オプションを取り付けることができる状態にするまでの手順を示します。本装置の電源を必ずOFFにして、電源コードをコンセントから抜いてください。

取り付け/取り外しの手順(→256ページ) さまざまなオプションを取り付けを1つ1つ手順をおって説明します。

注意事項

オプションを増設する際は次の点について注意してください。

安全上の注意

安全に正しくオプションの取り付け・取り外しをするために次の注意事項を必ず守ってください。

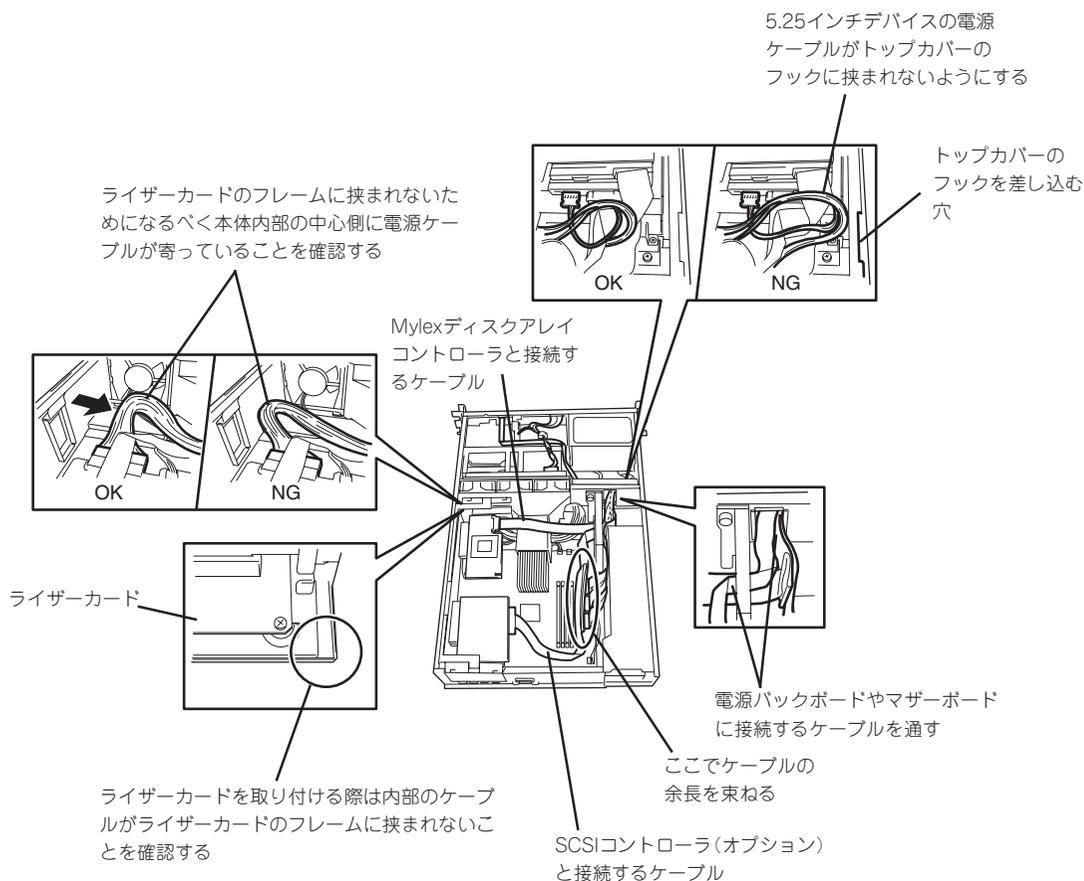
 警告	
     	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 自分で分解・修理・改造はしない● CD-ROMドライブの内部をのぞかない● リチウム電池やニッカド電池、ニッケル水素電池を取り外さない● プラグを差し込んだまま取り扱わない

 注意	
   	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 一人で持ち上げない● 中途半端に取り付けない● カバーを外したまま取り付けない● 指を挟まない● 高温注意

一般的な注意

- オプションの取り付け／取り外しはユーザー個人でも行えますが、この場合の装置および部品の破損または運用した結果の影響についてはその責任を負いかねますのでご了承ください。本装置について詳しく、専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に取り付け／取り外しを行わせるようお勧めします。
- オプションおよびケーブルはNECが指定する部品を使用してください。指定以外の部品を取り付けた結果起きた装置の誤動作または故障・破損についての修理は有料となります。
- ハードウェア構成を変更した場合も、必ずシステムをアップデートしてください(3章を参照)。
- オプションの取り付け・取り外し後に「診断プログラム」を起動して構成情報を[最新の情報に更新]してください(245ページに示す手順を参考に操作してください)。
- ストリーミングサーバ内部のオプションの取り付け／取り外しを行った場合は、内部のケーブルが下図のとおり正しく配線されていることを確認してください。誤ったケーブルの配線は、断線による誤動作だけでなく、火災・感電の原因となるおそれがあります。

ー SCSIモデルの場合

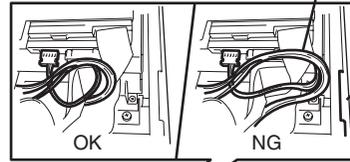
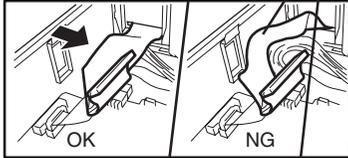


— IDEモデルの場合

ライザーカードのフレームに挟まれないため
なるべく本体内部の中心側にケーブルが寄っ
ていることを確認する

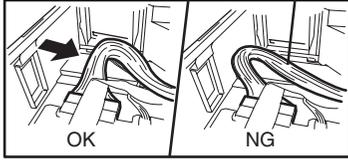
5.25インチデバイスの電源ケーブル
がトップカバーのフックに挟まれない
ようにする

<IDEケーブル>

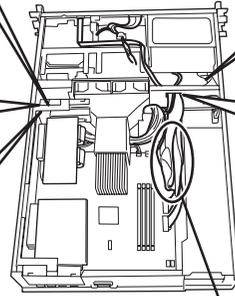
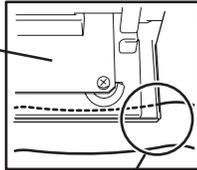


トップカバーの
フックを差し込
む穴

<電源ケーブル>



ライザーカード



マザーボードに接
続するケーブルを
通す

電源バックボードに
接続するケーブルを
通す

ここでケーブルの
余長を束ねる

ライザーカードを取り付ける際は内部のケーブ
ルがライザーカードのフレームに挟まれないこ
とを確認する

静電気対策について

ストリーミングサーバ内部の部品は静電気に弱い電子部品で構成されています。取り付け・取り外しの際は静電気による製品の故障に十分注意してください。

- **リストストラップ(アームバンドや静電気防止手袋など)の着用**

リスト接地ストラップを手首に巻き付けてください。手に入らない場合は部品を触る前に筐体の塗装されていない金属表面に触れて身体に蓄積された静電気を放電します。また、作業中は定期的に金属表面に触れて静電気を放電するようにしてください。

- **作業場所の確認**

- ー 静電気防止処理が施された床またはコンクリートの上で作業を行います。
- ー カーペットなど静電気の発生しやすい場所で作業を行う場合は、静電気防止処理を行った上で作業を行ってください。

- **作業台の使用**

静電気防止マットの上に本装置を置き、その上で作業を行ってください。

- **着衣**

- ー ウールや化学繊維でできた服を身につけて作業を行わないでください。
- ー 静電気防止靴を履いて作業を行ってください。
- ー 取り付け前に貴金属(指輪や腕輪、時計など)を外してください。

- **部品の取り扱い**

- ー 取り付ける部品は本装置に組み込むまで静電気防止用の袋に入れておいてください。
- ー 各部品の縁の部分を持ち、端子や実装部品に触れないでください。
- ー 部品を保管・運搬する場合は、静電気防止用の袋などに入れてください。

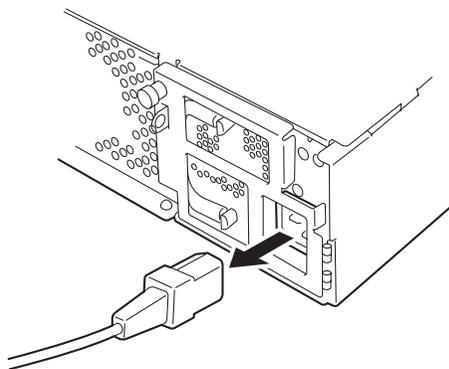
取り付け/取り外しの準備

部品の取り付け/取り外しの作業をする前に準備をします。

電源のOFF

1. OSのシャットダウン処理を行う。
2. POWERスイッチを押してストリーミングサーバの電源をOFF (POWER/SLEEPランプ消灯)にする。
3. ストリーミングサーバに接続しているすべてのケーブルおよび電源コードを取り外す。

以上で完了です。この後の部品を取り外すためにプラスドライバを用意してください。



ラックからの引き出し

ハードディスク (SCSIモデルのみ)を除く部品の取り付け/取り外しの作業はストリーミングサーバをラックから引き出した状態で行います。

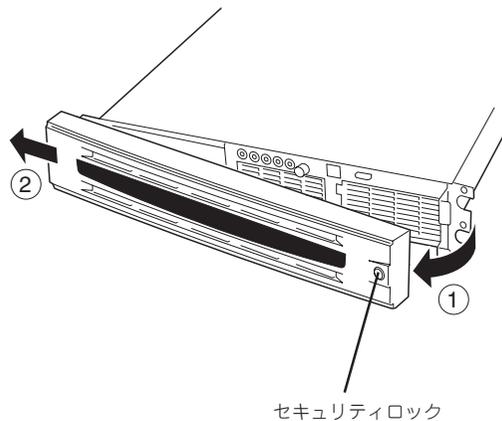
⚠ 注意



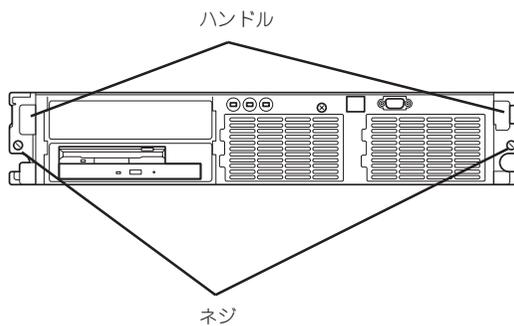
装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- カバーを外したまま取り付けない
- 指を挟まない
- 高温注意
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない

1. 電源をOFFにして接続しているすべてのケーブルおよび電源コードを取り外す。
2. セキュリティロックを解除してフロントベゼルを取り外す。



3. 前面のネジ2本をゆるめる。
4. ハンドルを持ってゆっくりと静かにラックから引き出す。
「カチッ」と音がしてラッチされます。



取り付け/取り外しの手順

次の手順に従って部品の取り付け/取り外しをします。

ハードディスク ～SCSIモデルのみ～

ハードディスクの取り付け・取り外しはSCSIモデル(N8100-787/789)のみ行えます。IDEモデル(N8100-788)は標準で2台(最大構成)のハードディスクを搭載しています。



IDEモデル(N8100-788)に標準装備のハードディスクは本製品について保守教育を受けた保守サービス会社の保守員のみ交換することができます。

SCSIモデルの前面にあるハードディスクベイには、SCA2インタフェース(Ultra160 SCSI)を持つハードディスクを取り付けるスロットを5つ用意しています。



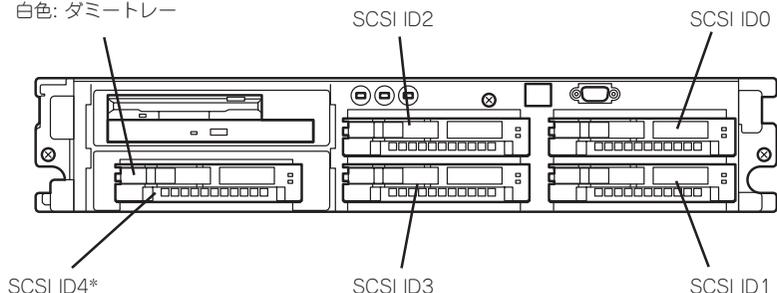
- NECで指定していないハードディスクを使用しないでください。サードパーティのハードディスクなどを取り付けると、ハードディスクだけでなく本体が故障するおそれがあります。次に示すモデルをお買い求めください(2001年8月現在)。
 - － N8150-105(18.1GB、Ultra160 SCSI、10,000rpm)
 - － N8150-106(36.3GB、Ultra160 SCSI、10,000rpm)
 - － N8150-136(73.2GB、Ultra160 SCSI、10,000rpm)
 - － N8150-134(18.1GB、Ultra160 SCSI、15,000rpm)
- ディスクアレイを構築する際は、RAIDレベルをRAID0、またはRAID1、RAID5、RAID0+1のいずれかに設定してください。
- 標準で5台のハードディスクを搭載することができます。5.25インチデバイスを搭載する場合は、最大4台までとなります。

スロットには約25.4mm(1インチ)厚のハードディスクを取り付けることができます。SCSI IDは次のように固定で設定されています。

レバーの色でトレイを見分ける

青色: ハードディスクを搭載したトレイ

白色: ダミートレイ



* 5.25インチデバイスを搭載しているときは、上段の3.5インチフロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブがSCSI ID4のスロットを専有するためハードディスクベイとしての使用はできません。

ハードディスクベイは、出荷時の構成でPCIボードスロット#4に搭載されているディスクアレイコントローラボード上のSCSIコネクタに接続されており、ハードディスクベイに搭載されるハードディスクはディスクアレイとして構成されます。

ハードディスクを標準で搭載しているモデルでは、出荷時にRAID5で構成されています。ハードディスクが搭載されていないモデル(ディスクレスモデル)ではハードディスクを搭載後、5章のディスクアレイBIOSユーティリティ(RAID EzAssist)を使ってRAIDの設定をします。

ハードディスクベイの空きスロットにはダミートレーが入っています。ダミートレーは装置内部の冷却効果を高めるためのものです。ハードディスクを搭載していないスロットにはダミートレーを取り付けてください。

取り付け

次に示す手順でハードディスクを取り付けます。その他のスロットへの取り付けも同様の手順で行えます。

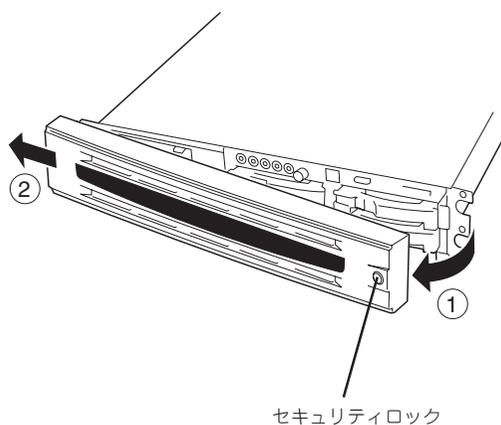


- ハードディスクは、フロントベゼルを取り外すだけで取り付け/取り外しを行うことができます。
- RAID1またはRAID5、RAID0+1のディスクアレイ構成で使用中にハードディスクを交換・増設する場合は、オートリビルド機能(交換)やエキスパンドキャパシティ(増設)を利用するためにも本体の電源をONのままですべての交換(ホットスワップ)してください(手順1をとばしてください)。



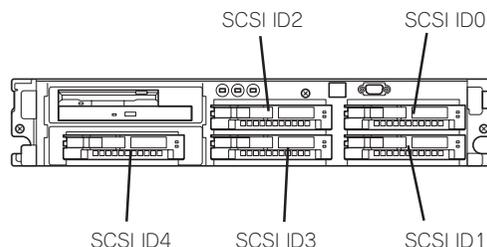
ディスクアレイ(バック)を構成するハードディスクは、容量や転送レートなどの仕様が同じものを使用してください。

1. 254ページを参照して準備をする。
2. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。



3. ハードディスクを取り付けるスロットを確認する。

スロットは5つあります。SCSI ID番号の小さい順に取り付けてください。SCSI IDはスロットの位置で決まっています。

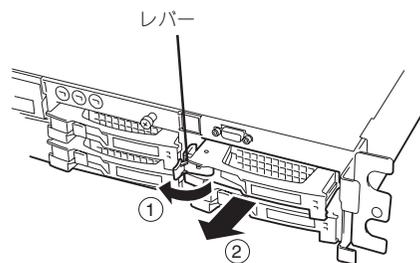


4. トレーのハンドル部分にあるレバーを引いてロックを解除してから、ハンドルを持ってダミートレーを取り外す。

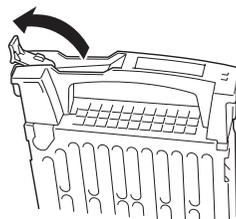
レバーが白色のものがダミートレーです。青色のものはトレーにハードディスクが搭載されています。

 **重要**

ダミートレーは大切に保管しておいてください。



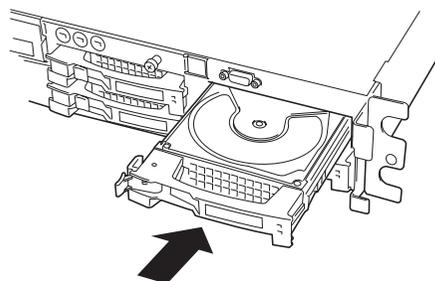
5. ハードディスクのロックを解除する。



6. 増設するハードディスク(トレー付き)のハンドルをしっかりと持ってスロットへ挿入する。

 **重要**

- レバーのフックがフレームに当たるまで押し込んでください。
- レバーの向きを確認してください。



7. レバーをゆっくりと閉じる。

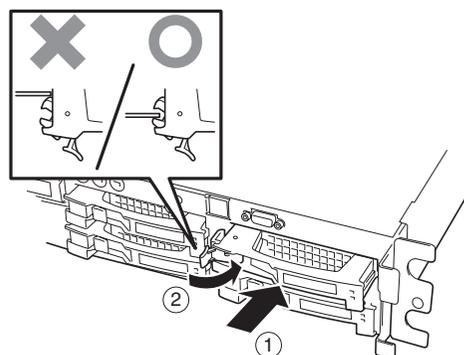
「カチッ」と音がしてロックされます。

 **重要**

レバーとハンドルに指を挟まないように注意してください。

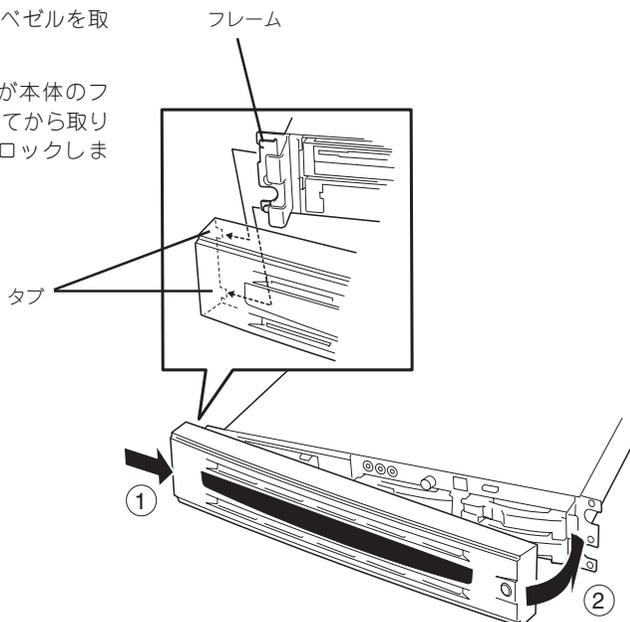
 **チェック**

レバーのフックがフレームに引っ掛かっていることを確認してください。



8. 手順2で取り外したフロントベゼルを取り付ける。

フロントベゼル左側のタブが本体のフレームに引っかかるようにしてから取り付けてセキュリティキーでロックします。



重要

ディスクアレイ構成での注意事項

- Global Array Manager (GAM)の運用中にハードディスクを追加する場合、ハードディスクを取り付け後、90秒ほど時間を空けてから「Scan Device」キーをクリックしてください。なお、Expand Array (エクスパンドキャパシティと同じ意味です)を実行後、「Scan Device」キーをクリックすると追加したディスクが正しく表示されます。
- RAID0で動作しているシステムにExpand Array機能を使って、ハードディスクを追加すると、自動的にRAID0+1に切り替わります(ただし、ユーティリティなどを使って直接RAID0+1に設定することはできません)。

取り外し

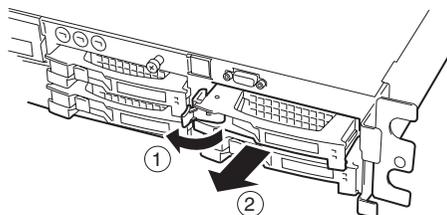
次の手順でハードディスクを取り外します。



チェック

ハードディスクが故障したためにディスクを取り外す場合は、ディスク故障ランプが点灯しているスロットをあらかじめ確認してください。

1. 254ページを参照して準備をする。
2. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。
3. レバーを手前に引く。
4. ハンドルを持って手前に引き出す。
5. ハードディスクを取り外したままシステムを使用する場合は、空いているスロットにダミートレーを取り付ける。



6. 手順2で取り外したフロントベゼルを取り付ける。

故障したハードディスクを交換した場合は、交換した新しいハードディスクに交換前までの情報を記録することにより、故障を起こす以前の状態に戻すことのできるオートリビルド機能を使用することができます。

オートリビルド機能は、RAID1、またはRAID5、RAID0+1に設定されているディスクアレイで有効です。

オートリビルドは、故障したハードディスクをホットスワップ(電源ONの状態でのディスクの交換)するだけで自動的に行われます。オートリビルドを行っている間、DISK故障ランプが点滅してオートリビルドを行っていることを示します。



- オートリビルドに失敗すると、DISK故障ランプがアンバー色に点灯します。もう一度ディスクの取り外し／取り付けを行ってオートリビルドを実行してください。
- ディスクアレイ監視ユーティリティをインストールしている場合は次のような表示や動作をすることがありますが、オートリビルド終了後、オートリビルドを行ったディスクのDISK故障ランプがアンバー色に点灯していなければ、オートリビルドは正常に行われています。
 - － オートリビルド中に「Rebuild was canceled」と画面に表示される。
 - － オートリビルドをいったん終了して再開しているような動作をする。

オートリビルドを行うときは、次の注意を守ってください。

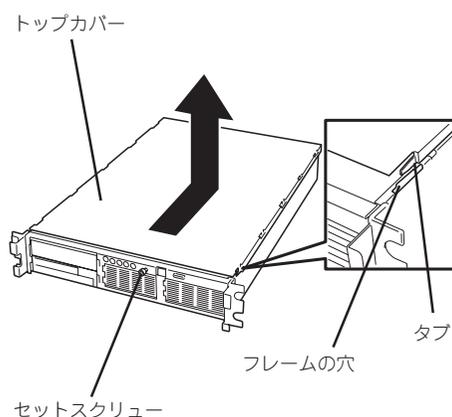
- ハードディスクが故障してから、オートリビルドを終了するまで装置の電源をOFFにしないでください。
- ハードディスクの取り外し／取り付けは、90秒以上の間隔をあけて行ってください。
- 他にリビルド中のハードディスクがある場合は、ディスクの交換を行わないでください(リビルド中はディスク故障ランプが点灯しています)。

トップカバー

内蔵デバイスの取り付け／取り外しや内部のケーブル接続を変更するときはトップカバーを取り外します。以下の説明中のイラストではIDEモデルを例に示していますが、SCSIモデルでも同じ手順で取り付け・取り外しができます。

取り外し

1. 254ページを参照して準備をする。
2. ストリーミングサーバをラックから引き出す(254ページ参照)。
3. 前面のセットスクリューをゆるめてトップカバーを取り外す。



取り付け

トップカバーを取り付けるときは、トップカバーのタブが本体フレームに確実に差し込まれていることを確認してからセットスクリューで固定してください。

DIMM

DIMM(Dual Inline Memory Module)は、ストリーミングサーバマザーボード上のDIMMソケットに取り付けます。

マザーボード上にはDIMMを取り付けるソケットが4個あります。



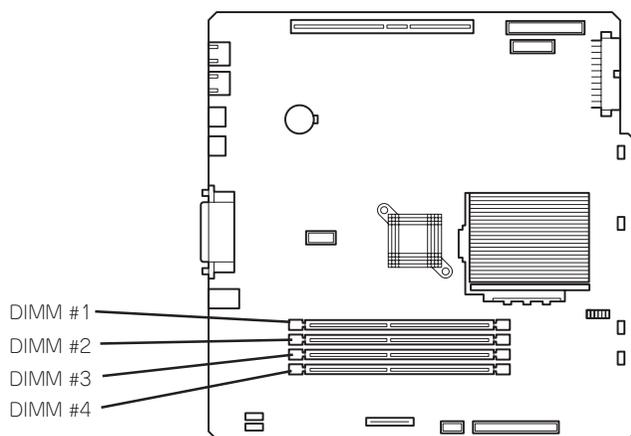
メモリは最大4GB(1GB×4枚)まで増設できます。



- DIMMは大変静電気に弱い電子部品です。装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからボードを取り扱ってください。また、ボードの端子部分や部品を素手で触ったり、ボードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は253ページで詳しく説明しています。
- NECで指定していないDIMMを使用しないでください。サードパーティのDIMMなどを取り付けると、DIMMだけでなくサーバ本体が故障するおそれがあります。また、これらの製品が原因となった故障や破損についての修理は保証期間中でも有料となります。

DIMMの増設順序

DIMMは、DIMM番号の小さい順に増設します。



マザーボード

出荷時の状態:

DIMM #1と#2に256MBのDIMMを搭載しています。

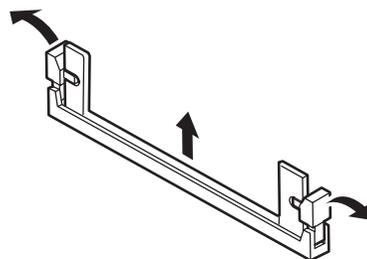
取り付け

次の手順に従ってDIMMを取り付けます。

1. 254ページを参照して準備をする。
2. トップカバーを取り外す(261ページ参照)。
3. DIMMを取り付けるソケットに取り付けられているDIMMカバーを取り外す。

重要

取り外したDIMMカバーは、大切に保管しておいてください。

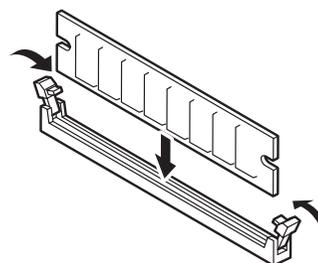


4. DIMMをソケットにまっすぐ押し込む。

チェック

DIMMの向きに注意してください。
DIMMの端子側には誤挿入を防止するための切り欠きがあります。

DIMMがDIMMソケットに差し込まれるとレバーが自動的に閉じます。



5. 手順1～2で取り外した部品を取り付ける。
6. POSTの画面でエラーメッセージが表示されていないことを確認する。
POSTのエラーメッセージの詳細については6章を参照してください。
7. SETUPを起動して「Advanced」→「Memory Reconfiguration」の順でメニューを選択し、増設したDIMMのステータス表示が「Normal」になっていることを確認する(5章参照)。
8. 「Advanced」→「Advanced」の順でメニューを選択し、「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。
ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは5章をご覧ください。
9. ページングファイルサイズを推奨値(搭載メモリ x 1.5)以上に設定する。
詳しくは3章を参照してください。

取り外し

次の手順に従ってDIMMを取り外します。

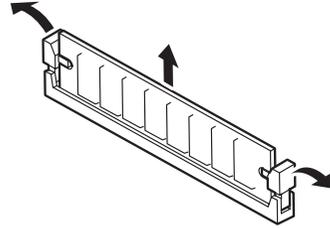


- 故障したDIMMを取り外す場合は、POSTやESMPROで表示されるエラーメッセージを確認して、取り付けているDIMMソケットを確認してください。
- DIMMは最低1枚搭載されていないとストリーミングサーバは動作しません。

1. 254ページを参照して準備をする。
2. トップカバーを取り外す(261ページ参照)。

3. 取り外すDIMMのソケットの両側にあるレバーを左右にひろげる。

ロックが解除されDIMMを取り外せます。



4. 手順1～2で取り外した部品を取り付ける。
5. ストリーミングサーバの電源をONにしてPOSTの画面でエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

POSTのエラーメッセージの詳細については6章を参照してください。

6. SETUPを起動して「Advanced」-「Memory Reconfiguration」-「Clear Memory Error」の順でメニューを選択し、取り外したDIMMのエラー情報をクリアする(5章参照)。
7. 「Advanced」-「Advanced」の順でメニューを選択し、「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは5章をご覧ください。

PCIボード

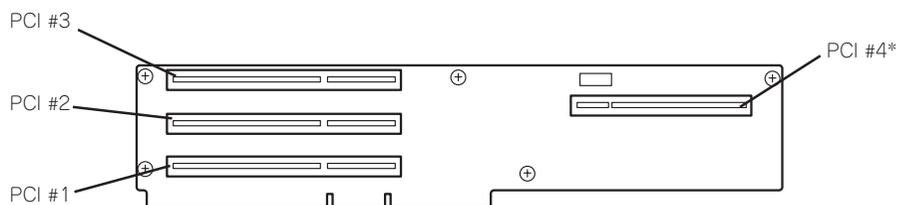
ストリーミングサーバには、PCIボードを取り付けることのできるスロットを4スロット用意しています。そのうちPCI #4のスロットは内蔵ハードディスクをディスクアレイ構成にするための「Mylexディスクアレイコントローラ（SCSIモデルの場合）」または「IDEディスクミラーリングコントローラ（IDEモデルの場合）」が標準で搭載されています。



- PCIボードは大変静電気に弱い電子部品です。サーバの金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからPCIボードを取り扱ってください。また、PCIボードの端子部分や部品を素手で触ったり、PCIボードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は253ページで詳しく説明しています。
- 取り付けることができるPCIボードの組み合わせには制限事項があります。詳細はお買い求めの販売店または保守サービス会社までお問い合わせください。



PCIボードを取り付けたり、取り外したり、取り付けていたスロットを変えたりした場合は、必要に応じてBIOSセットアップユーティリティ「SETUP」を使って割り込みライン（IRQ）などの詳細な設定を変更してください。ストリーミングサーバの出荷時の割り込みラインの状態やI/O空間の設定については、209ページを参照してください。



ライザーカード

* SCSIモデルでは、Mylexディスクアレイコントローラを、IDEモデルでは、IDEディスクミラーリングコントローラを標準で装備。

次の表で本装置がサポートするPCIボードと取り付けることができるスロットの一覧を示します。

型名	製品名	スロット				備考
		PCI#1	PCI#2	PCI#3	PCI#4*1	
N8006-01	ビデオキャプチャボードA	○	○	○	—	最大1枚まで
N8006-03	サウンドボードA	○	○	○	—	
N8103-55	SCSIコントローラ*2	○	○	○	—	
N8103-56	SCSIコントローラ*2	○	○	○	—	
N8103-52	ディスクアレイコントローラ*2	○	○	○	—	
N8104-84	1000BASE-SX接続ボード*2	○	○	○	—	
N8104-90	1000BASE-T接続ボード*2	○	○	○	—	
N8104-80	100BASE-TX接続ボード*2	○	○	○	—	
N8104-85	100BASE-TX接続ボード*2	○	○	○	—	
N8104-86	100BASE-TX接続ボード*2	○	○	○	—	

○ 搭載可能 — 搭載不可

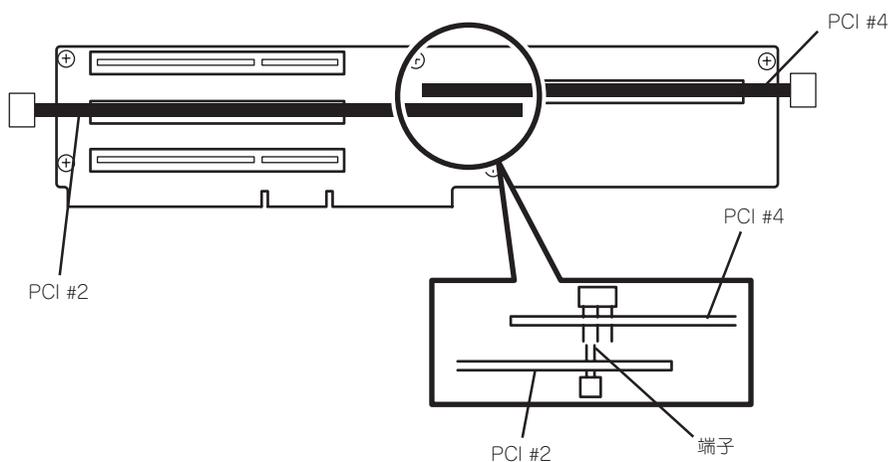
*1 SCSIモデル(N8100-787/789)ではMylexディスクアレイコントローラを標準搭載。
IDEモデル(N8100-788)ではIDEディスクミラーリングコントローラを標準搭載。

*2 OSブートを行うカード以外はBIOSのOptionROM設定をDisableに設定してください。

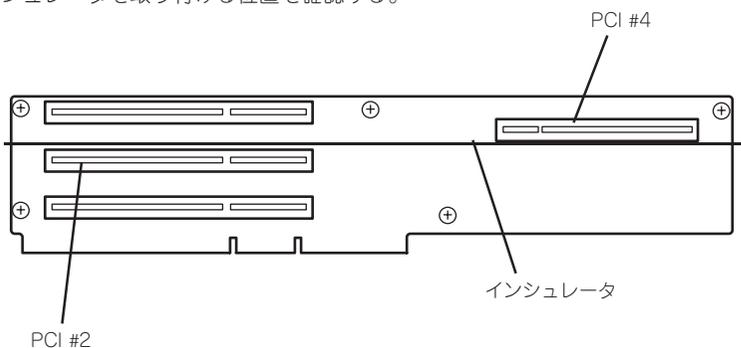
注意事項

PCIボードスロット#2と#4にボードを取り付けた場合は、添付の「インシュレータ」をボードの間に取り付けてください。

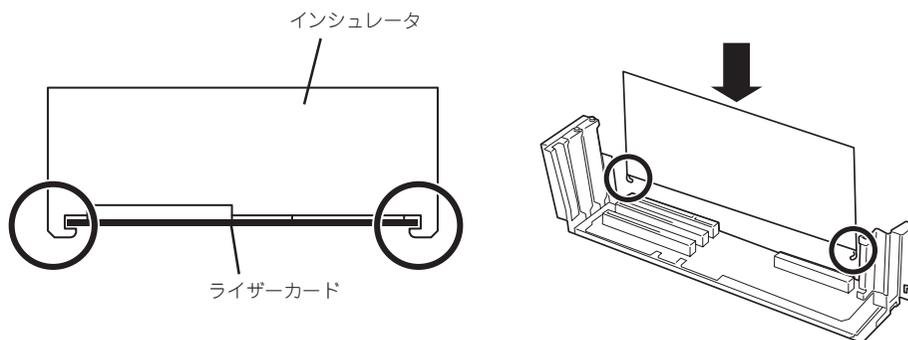
PCIボードスロット#2と#4に取り付けられるボードは、ボード上の端子が向き合うように取り付けられます。インシュレータは向き合った端子の接触による誤動作を防ぐためのものです。



1. インシュレータを取り付ける位置を確認する。



2. インシュレータのフックをライザーカードに引っかける。



PCIボードスロット#2と#4に取り付けたボードを取り外して運用する場合は、インシュレータも取り外してください。

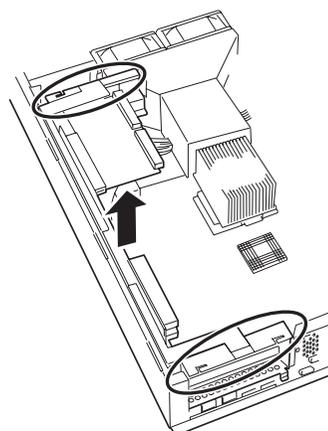
取り付け

次の手順に従ってPCIボードスロットに接続するボードの取り付けを行います。

- チェック** PCIボードを取り付けるときは、ボードの接続部の形状とPCIボードスロットのコネクタ形状が合っていることを確認してください。

1. 254ページを参照して準備をする。
2. トップカバーを取り外す(261ページ参照)。
3. ブラケット付きのライザーカードを取り外す。

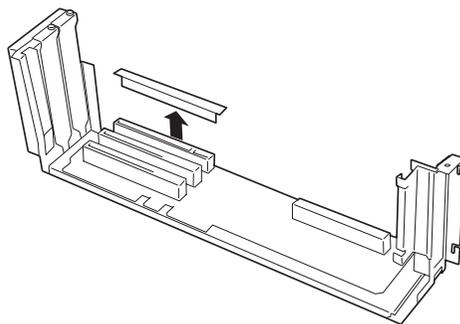
右図の丸印部分でしっかりと持てる部分を持ってまっすぐに持ち上げます。



4. ボードを取り付けるスロットを確認し、コネクタキャップを取り外す。

重要

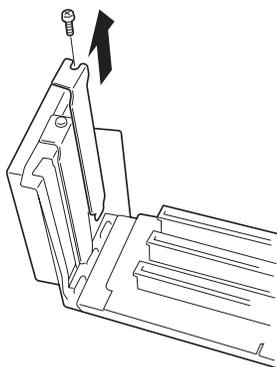
取り外したコネクタキャップは、大切に保管しておいてください。



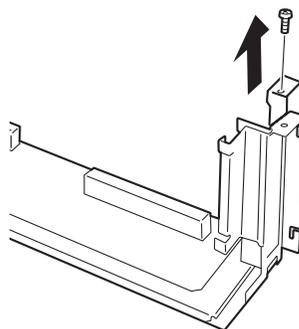
5. 取り付けるスロットと同じ位置にある増設スロットカバーを固定しているネジ1本を外す。
6. 増設スロットカバーを取り外す。

重要

取り外した増設スロットカバーは、大切に保管しておいてください。

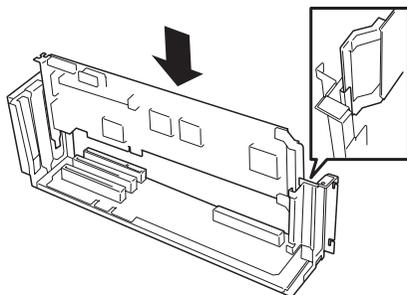


PCI #1～#3の場合

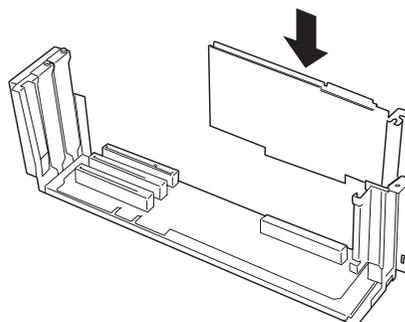


PCI #4の場合

7. ガイドレールの溝にボードを合わせてゆっくりコネクタへ差し込む。



PCI #1～#3の場合

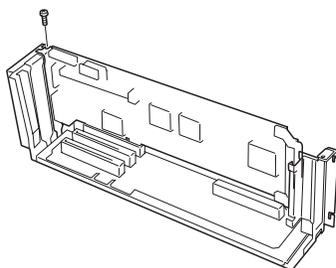


PCI #4の場合

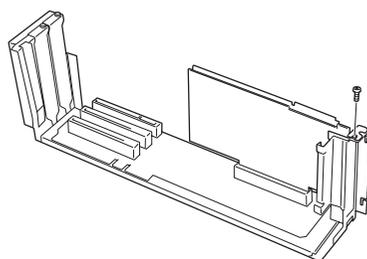
重要

- うまくボードを取り付けられないときは、ボードをいったん取り外してから取り付け直してください。ボードに過度の力を加えるとボードを破損するおそれがありますので注意してください。
- PCIボードスロット#2と#4にボードを取り付けた場合は、ボードの間に「インシュレータ(黒色)」を取り付けてください(266ページの「注意事項」を参照)。インシュレータはPCIボード同士の接触を防止するものです。PCIボードスロット#2と#4にボードを取り付けた場合は必ず取り付けてください(どちらかのボードを取り外した場合は、インシュレータを取り外してください)。また、取り付けや取り外しの際にインシュレータを破損しないよう注意してください。
- PCIデバイスを増設の際、以下の場合はBIOSの設定が必要になります。
 - － OSブート(ネットワークブートを含む)を行うPCIボードを除き、BIOSセットアップユーティリティの設定でOption ROM設定をDisableにしてください。
 <設定するメニュー：「Advanced」→「Option ROM」>
 ただし、増設したPCIボードが持つBIOSセットアップユーティリティを設定する場合には、設定したいカードの搭載SlotだけをEnableに設定し他は、Disableに設定してください。
 - － ネットワークボードを増設し、ネットワークブートを行わない場合、BIOSセットアップユーティリティの設定で増設したSlotのOption ROM設定をDisableにしてください。
 <設定するメニュー：「Advanced」→「Option ROM」>

8. 手順5で外したネジで固定する。



PCI #1～#3の場合



PCI #4の場合

9. 取り外した部品を取り付ける。



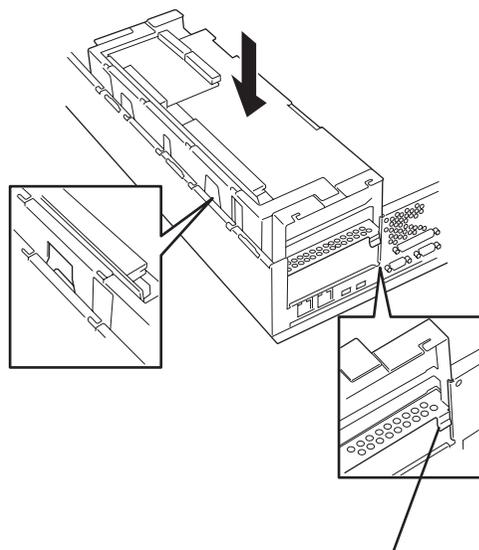
ライザーカードの取り付けでは、右図のようにライザーカードのブラケットが本体のフレームに確実に差し込まれていることを確認しながら取り付けてください。

10. ストリーミングサーバの電源をONにしてPOSTの画面でボードに関するエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

POSTのエラーメッセージの詳細については6章を参照してください。

11. BIOSセットアップユーティリティを起動して「Advanced」-「Advanced」の順でメニューを選択し、「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは5章をご覧ください。



ライザーカードの切り欠きが本体背面のフレームを押しさえるようにする

取り外し

ボードの取り外しは、取り付けの逆の手順を行い、コネクタキャップと増設スロットカバーを取り付けてください。

5.25インチデバイス

ストリーミングサーバには、磁気テープドライブなどのバックアップデバイスを取り付けるスロットを1つ用意しています。



5.25インチデバイスを搭載するには、別売のSCSIコントローラ(PCIボード)とSCSIケーブルが必要です(N8151-32 DVD-RAMなどのIDEデバイスを除く)。また、使用するSCSIケーブルは接続するデバイスによって異なります。

- Narrow SCSIデバイス
K410-41(00) SCSIケーブル(50ピン)
- Wide SCSIデバイス
K410-65(00) SCSIケーブル(68ピン)
- 取り付ける5.25インチデバイスの終端抵抗の設定は「OFF」に、SCSI IDは他のデバイスと重複しないように設定してください。設定方法については、それぞれの装置のマニュアルを参照してください。
- NECで指定していない5.25インチデバイスを取り付けしないでください。
- 2スロットを専有する5.25インチデバイスは取り付けることができません。
- N8151-32 DVD-RAMを取り付けた場合は、本体標準装備のCD-ROMドライブを使用することはできません。

搭載するスロットについて

5.25インチデバイスは本体前面から見て、左端上側のスロットに搭載します。SCSIモデルの場合は、搭載済みのデバイスやハードディスク搭載スロットの取り外しや取り付け位置の交換が必要となります。

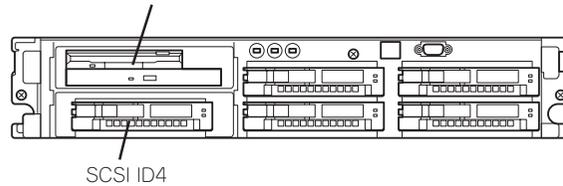
SCSIモデルの場合

5.25インチデバイスはフロッピーディスク/CD-ROMドライブベイに取り付けます。5.25インチデバイスを本装置に取り付けるためには、SCSI ID4の-slotにあるハードディスクとハードディスクを搭載するためのドライブケースを取り外し、取り外したslotにフロッピーディスクとCD-ROMドライブを取り付ける必要があります。

5.25インチデバイスを取り付けた場合、ハードディスクは最大4台までとなります。

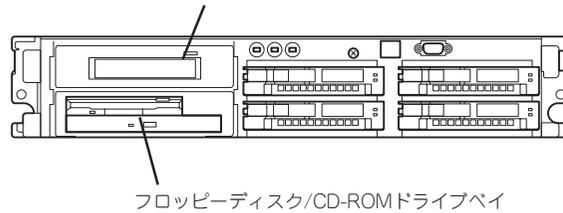
<取り付け前>

フロッピーディスク/CD-ROMドライブベイ



<取り付け後>

5.25インチデバイス

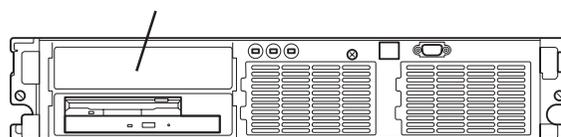


IDEモデルの場合

5.25インチデバイスは5.25インチデバイスベイに取り付けます。5.25インチデバイスベイに取り付けられているブランクケースを取り外し、デバイスを取り付けます。

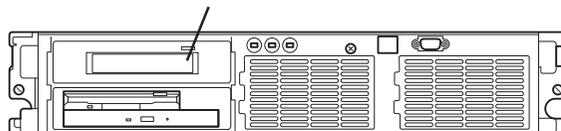
<取り付け前>

5.25インチデバイスベイ



<取り付け後>

5.25インチデバイス



取り付け ～SCSIモデルの場合～

次の手順に従ってデバイスを取り付けます。



ヒント

- IDEモデルについてはこの後の説明を参照してください。
- N8151-32 DVD-RAM装置の取り付け方法について一部追記しています。

1. 254ページを参照して準備をする。

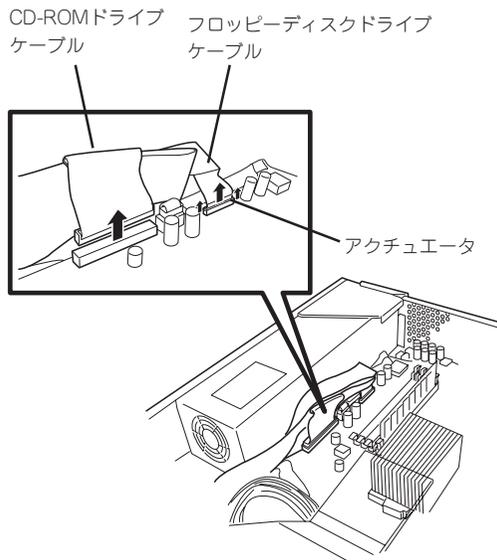
2. 次の部品を取り外す。

- ハードディスクベイのSCSI ID4に取り付けているトレイ (259ページ参照)
- トップカバー (257ページ参照)

3. マザーボード側のフロッピーディスクドライブケーブルとCD-ROMドライブケーブルを取り外す。

重要

フロッピーディスクドライブケーブルはコネクタのアクチュエータを引き上げて垂直に引き抜いてください。

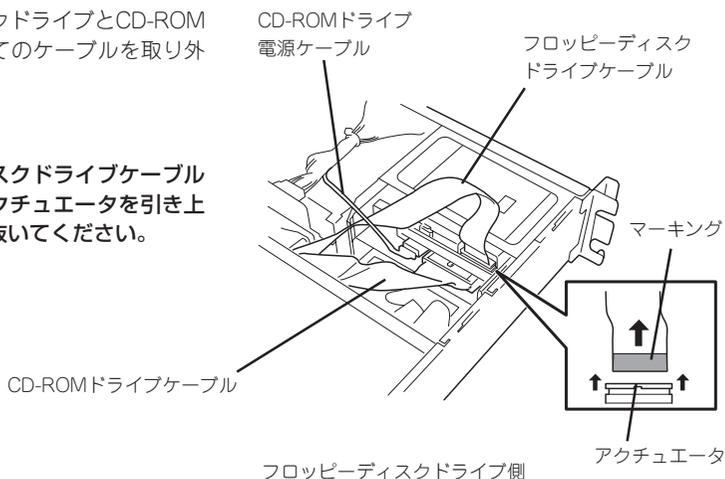


マザーボード側

4. フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブからすべてのケーブルを取り外す。

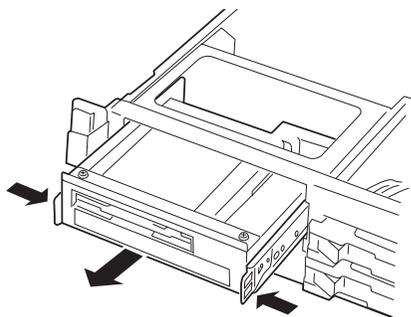
重要

フロッピーディスクドライブケーブルはコネクタのアクチュエータを引き上げて垂直に引き抜いてください。



フロッピーディスクドライブ側

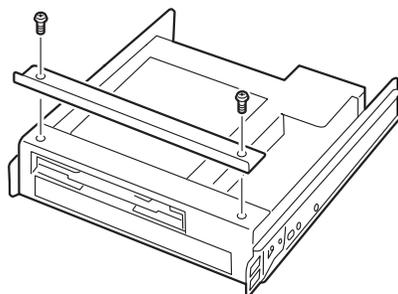
5. フロッピーディスク/CD-ROMドライブベイを取り外す。



6. フロッピーディスク/CD-ROMドライブベイの上部に装着されている化粧板をネジ2本を外して取り外す。

重要

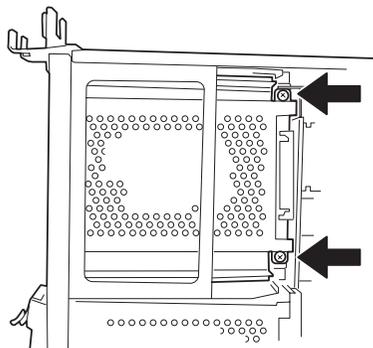
取り外したネジと化粧板は、大切に保管しておいてください。



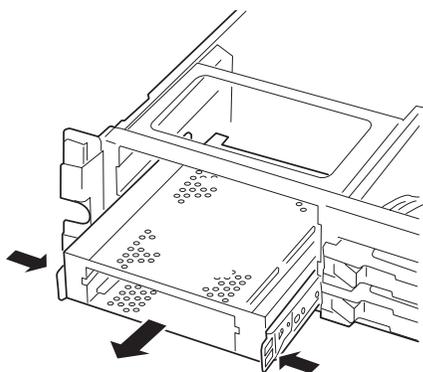
7. ハードディスクベイを固定しているネジ2本を取り外す。

重要

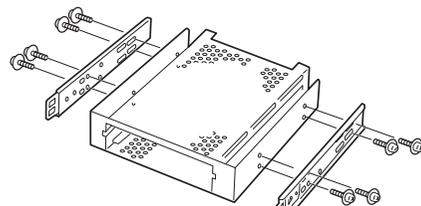
取り外したネジは、大切に保管しておいてください。



8. 手順5と同様の手順でハードディスクベイを取り外す。



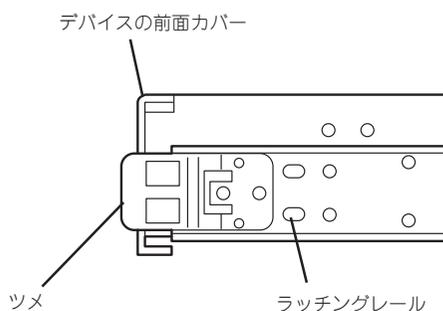
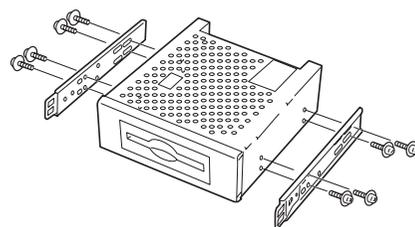
9. ハードディスクベイからラッチングレールを取り外す。



10. 取り外したラッチングレールを5.25インチデバイスに取り付ける。

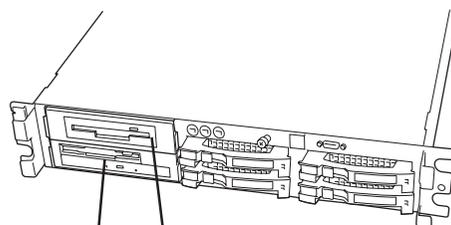
✓ **チェック**

- 必ずデバイスに添付されているネジを使用してください。デバイスにネジが添付されていない場合は、手順8で外したネジ(ミリネジ)を使用できる場合もありますが、固定する前にデバイスに添付の説明書を参照してネジの仕様を確認してください。
- ラッチングレールの取り付け位置を確認してください。レールのツメがデバイスの前面カバーから少し飛び出るくらいを目安に固定してください。



11. フロッピーディスク/CD-ROMドライブベイを下のスロットへ差し込む。

12. 手順3と4を参照してフロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブのケーブルを接続する(N8151-32 DVD-RAM装置を取り付けた場合は「重要」を参照)。



5.25インチデバイス
フロッピーディスク/
CD-ROMドライブベイ

取り付け後の状態

✓ **チェック**

フロッピーディスクドライブケーブルの先端にあるブルーのマーキングを見て接続の向きを確認してください。

マザーボード側:

ブルーのマーキングをDIMMソケットに向けて差し込んでください。

フロッピーディスクドライブ側:

ブルーのマーキングを装置背面に向けて差し込んでください。

🔑 **重要**

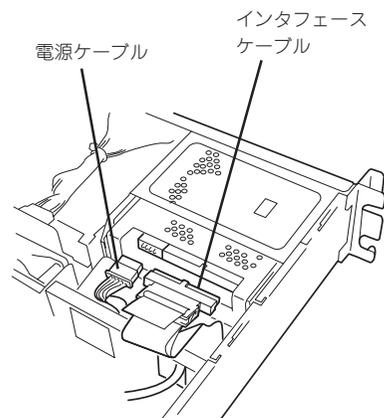
フロッピーディスクドライブケーブルはコネクタに確実に挿入した後にアクチュエータを押し込んでください。

13. 5.25インチデバイスをフロッピーディスク/CD-ROMドライブベイの上のスロットへ差し込む。

14. 5.25インチデバイスにケーブルを接続する(N8151-32 DVD-RAM装置を取り付けた場合は「重要」を参照)。

🔑 **重要**

- 電源ケーブルにはコネクタカバーが取り付けられています。デバイスに接続した後、カバーは大切に保管しておいてください。
- N8151-32 DVD-RAM装置を取り付けた場合、標準装備のCD-ROMドライブに接続していたインタフェースケーブルを接続してください。電源ケーブルはマザーボード上から出ている5.25インチデバイス用のものを使用します。また、DVD-RAM装置より音声を出力する場合はサウンドカードなどに添付しているケーブルを使用してください。



✓ **チェック**

取り付けたデバイスのインタフェースコネクタの形状を確認してください。デバイスにより使用するインタフェースケーブルが異なります(271ページ参照)。

15. 取り外した部品を取り付ける。

16. SCSIデバイスを搭載した場合は、SCSIコントローラに添付の説明書を参照してセットアップをする。

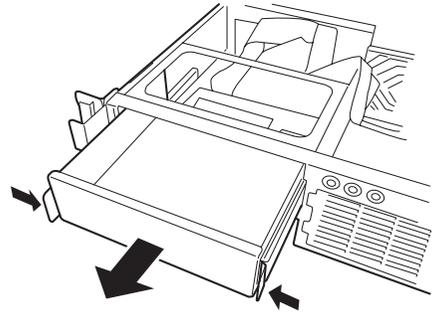
取り付け ～IDEモデルの場合～

次の手順に従ってデバイスを取り付けます。

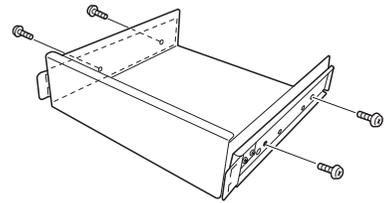


N8151-32 DVD-RAM装置の取り付け方法について一部追記しています。

1. 254ページを参照して準備をする。
2. トップカバーを取り外す(261ページ参照)。
3. 5.25インチデバイスベイからブランク
ケージを取り外す。



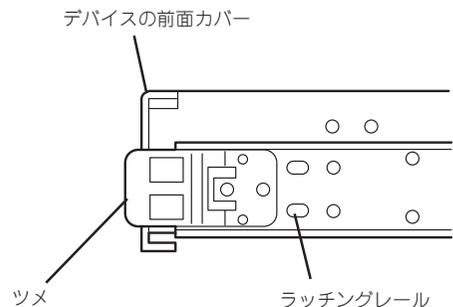
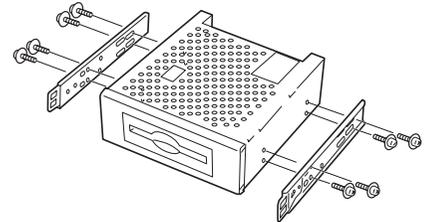
4. ブランクケージからラッチングレールを
取り外す。



5. 取り外したラッチングレールを5.25イン
チデバイスに取り付ける。

✓ チェック

- 必ずデバイスに添付されているネジを使用してください。デバイスにネジが添付されていない場合は、手順8で外したネジ(ミリネジ)を使用できる場合もありますが、固定する前にデバイスに添付の説明書を参照してネジの仕様を確認してください。
- ラッチングレールの取り付け位置を確認してください。レールのツメがデバイスの前面カバーから少し飛び出るくらいを目安に固定してください。



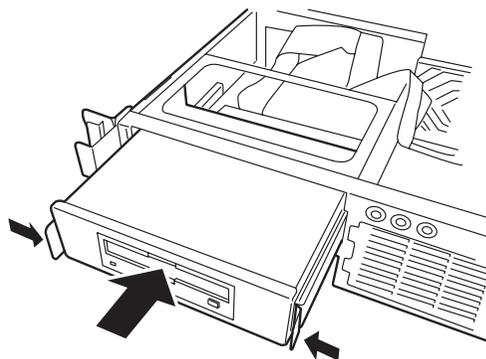
6. <N8151-32 DVD-RAM装置を取り付ける場合のみ>

標準装備のCD-ROMドライブに接続しているインタフェースケーブルと電源ケーブルを取り外す。

重要

N8151-32 DVD-RAM装置を取り付けた場合、標準装備のCD-ROMドライブは使用できません。接続しているケーブルをすべて取り外してください。取り外したケーブルはこの後の手順でDVD-RAM装置に接続します。

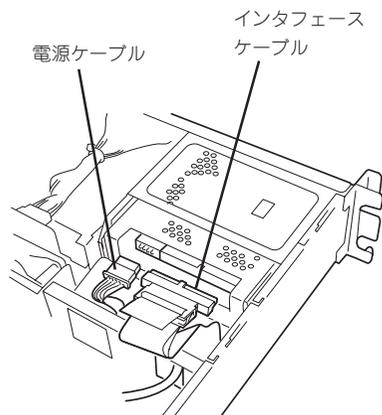
7. 5.25インチデバイスを5.25インチデバイスベイへ差し込む。



8. 5.25インチデバイスにケーブルを接続する (N8151-32 DVD-RAM装置を取り付けた場合は「重要」を参照)。

重要

- 電源ケーブルにはコネクタカバーが取り付けられています。デバイスに接続した後、カバーは大切に保管しておいてください。
- N8151-32 DVD-RAM装置を取り付けた場合、標準装備のCD-ROMドライブに接続していたインタフェースケーブルを接続してください。電源ケーブルはマザーボード上から出ている5.25インチデバイス用のものを使用します。また、DVD-RAM装置より音声を出力する場合はサウンドカードなどに添付しているケーブルを使用してください。



チェック

取り付けたデバイスのインタフェースコネクタの形状を確認してください。デバイスにより使用するインタフェースケーブルが異なります(271ページ参照)。

9. 取り外した部品を取り付ける。
10. SCSIデバイスを搭載した場合は、SCSIコントローラに添付の説明書を参照してセットアップをする。

取り外し

取り外しは、「取り付け」の逆を行ってください。

